

クイズ大会の開催・夏祭りでのブース企画を通して、地域の子どもたちに楽しいひと時を過ごしてもらう

岡山大学まちづくり研究会

活動の目的

本団体は岡山県瀬戸内市裳掛地区を拠点に、地域行事への参加や自主企画主催など様々な活動を継続的に展開している。その中で、今年度は「地域のニーズに対して、大学生の得意分野・やりたい事で応えていく事」を意識し、地域の方との普段の会話等を踏まえ、大学生が子どもたちに自然や文化・学習面など様々な体験をする場を提供する方針を固めた。また、それらを経験した子どもたちの成長を保護者・地域の方々にお見せする事で地域全体の活性化に繋がたいと考え、「子どもの挑戦・学びの環境作り」に貢献し、地域全体の活性化へと繋げる活動に取り組んだ。

活動の内容及び経過

(1) 7月6日(土) 13:00より、「裳掛王決定戦」と題してクイズ大会を開催した。対象は小学生とし、小学生が日頃の学習の成果を発揮できるような問題や裳掛地区に関する問題、体を動かしながら解答する問題を出題した。さらには、参加小学生が問題の出題者側となって他の小学生に出題する機会も設けた。勉強した成果は定期試験で測られる事が多い中、クイズ大会を通じて楽しみながらその成果を発揮してもらい、「試験の為」だけではない「勉強する事」の楽しさ・大切さを子どもたちには感じ取ってもらえた。また本大会を通して、全校児童数が30人程度の小学校に通う子どもたちにとって日常とは異なる競争意識を掻き立たせる事もできた。

(2) 瀬戸内市立裳掛小学校 PTA 主催の夏祭り(8月31日(土)開催)において、大学生が企画するブースとして竹空気鉄砲作りとお化け屋敷を実施した。

竹空気鉄砲作りについては、地域の方のご協力の下で地域に自生する竹を用意し、子どもたちと大学生が竹空気鉄砲を実際に作製した上で、的当てをして遊んだ。デジタルな玩具が普及するこの頃、竹空気鉄砲というアナログな玩具を自ら作って遊ぶ事で、大学生も含めて地域の財産である自然に触れる貴重な経験ができた。

お化け屋敷に関しては前年度の本団体の活動でも実施していたが、好評につき、保護者や地域の方からの要望を受けて今年度も実施した。前年度のお化け屋敷との違いを出す為にコンセプトを美術館・博物館とし、世界史や芸術を少しでも体感できる世界観を大学生が作り上げ、子どもたちに来場してもらった。私たちが作った美術館は、当然ながら偽物である。しかし小学校の行事でもなかなか美術館見学は少ない中で、子どもたちは「美術館に行く」という行為をする感覚を掴む事はできた。

(3) 裳掛地区コミュニティ協議会主催「第7回どんど祭り」(2020年1月18日(土)開催)にて、子ども園の園児・小学校の児童・保護者・地域の方々に絵馬を書いていただき、そ



の場で展示して地域の皆さまに見ていただく企画を実施した。絵馬には皆さまの今年の目標を書いていただき、その内容を話題に大学生や他の地域の方を交えて交流した。

どんど祭り自体は地域協議会が主催している為、本団体の活動目的を反映させる事は難しかった。しかし、園児や小学生の目標を保護者や地域の方々に見ていただく機会を設ける事ができ、子どもたちの成長を地域全体で見守る雰囲気作り、さらには地域活性化への一助となった。

活動の成果・効果

地方に住む子どもたちにとって、幼少期に経験できる事は物理的に限られてしまうと同時に、その地域でしか体験できない事も存在する。前述の2つの企画を通して、裳掛地区の子どもたちには自然・文化・学習面における体験の場というその両者を提供することができたと考える。子どもたちにとって現在はこれらが楽しかった思い出の1つであるかもしれないが、将来的にこれらを振り返った時に自身の価値観を形成する1つの要素になれば良いと考える。

その他、小学校 PTA 主催の夏祭りには保護者・地域住民の来場もあった事から、子どもたちが前述の体験を楽しみながら行う姿を保護者・地域住民にお見せする事もでき、本団体の企画でこのような方々にも満足していただいた。また地域協議会主催のどんど祭りにおいても、同様の結果を生み出す事ができた。この点から、ひとえに地域の活性化にも繋がったのではないかと考える。

今後の課題と問題点

地域活性化に向けては地域コミュニティと保護者の連携が非常に重要になってくる。現状は両者の関係性が希薄と言える為、その両者をどのようにして繋ぐかが問題である。

- 代表者：小山拓也 ●所在地：岡山市北区津島中
- E-MAIL：pgob24d7@s.okayama-u.ac.jp
- 設立年：2013年 ●メンバー数：43名